

	<h1 style="font-size: 2em;">明日を拓く</h1>	<h2 style="font-size: 1.5em;">学 校 報</h2> <p>令和2年 3月12日</p> <p>No.55</p> <p>美郷町立美郷中学校</p>
---	--	--

■臨時休業に伴う「未履修内容」の学習について

この度の臨時休業に伴い、本来年度内に学習する予定であった学習内容の内、本校では、次の内容が「未履修〈学習指導要領に規定された内容が学習で扱われていない状況〉」となってしまいました。ご心配をおかけし、大変申し訳ありません。

【1年生】 未履修内容		
社会	全学級	4 単位時間相当 〔歴史分野〕ヨーロッパ人との出会いと全国統一
理科	全学級	7 単位時間相当 〔地学分野〕大地とその変化
音楽	1、2組	1 単位時間相当 〔共通教材〕赤とんぼ
【2年生】 未履修内容		
社会	全学級	2 単位時間相当 〔歴史分野〕明治維新
音楽	1~4、7、8組	2 単位時間相当 〔共通教材〕ブルタバ
	5、9組	3 単位時間相当 〔共通教材〕荒城の月 ブルタバ

このことについて、町教育委員会の指導の下、次のとおり対応することといたしました。生徒の皆さんには決して不利益とならないよう最善を尽くしますので、ご了承をお願いいたします。

- 1 社会科と理科については、新年度の時間割が確定するまでの学年日課の期間に時間措置し、進級後の新学級の授業で履修する。時間が不足の際には、時間割確定後最優先で学習する。
- 2 音楽については、進級後の通常時間割の学習で、同内容を扱う際に同時に履修する。学級編制により履修状況に差はあるが、復習も兼ねる学習にする。

■卒業記念品「体育館ステージ中央階段」贈呈

卒業証書授与式に先立ち、O. OOさんが代表して目録を読み上げて校長に手渡しました。手摺りがあり、折りたたみも可能な利便性と品格を備えた調度品です。栄叶学年の想いを一段一段踏みしめて、未永く、大切に、有効に活用させていただきます。ありがとうございました。



■栄叶学年卒業門出の饞に「白鳥蘆花に入る」

保護者と教職員が見守る中、栄叶学年143名は肅々と卒業証書を手にし、晴れやかに美郷中学校から巣立ちました。式辞の中で饞の言葉を贈りましたので、紹介いたします。

卒業証書を手し、令和初の門出に立つ、美郷中学校第八期生栄叶学年の皆さん、ご卒業おめでとうございます。式に参列できなかった在校生と全教職員を代表してお祝い申し上げます。

保護者の皆様におかれましては、中学校三年間、そして九年間の義務教育の全課程を修了した凛々しいお子様の姿を、万感の想いで見届けられたことと拝察申し上げます。お子様のご卒業を改めてお祝い申し上げます。併せて、本校にお子様を託していただき、本校の教育活動に対して一方ならぬご理解とご支援を賜りましたこと、就中(なかんづ)い、この度卒業記念品として、体育館ステージ中央階段を御恵与くださいましたことに、篤く御礼申し上げます。

また、本日は、大変困難な社会情勢の中、学校設置者美郷町長松田知己様に見守っていただき、栄叶学年143名の卒業証書授与式を斯くも肅然と挙行できますことに、衷心より感謝申し上げます。

さて、栄叶学年の皆さんが本校に入学したのは平成29年4月です。丁度、将棋の藤井聡太七段、当時14歳で四段が、プロ公式戦歴代最多の29連勝を成し遂げた年であり

ます。中学生の偉業に期待が高まった年に中学生になった皆さんにとっては、どんな中学校生活だったでしょうか。

栄叶学年の皆さんは、心根の優しい人たちです。優しい心根を素直に行動で表現できる人たちです。

それは、学校行事で全校をリードする姿や、兄弟学級を応援する姿、タイムトライアルで仲間を励ます姿など、さりげない日常に溢れています。伝統の「走る美郷」の魂を、郡陸上競技大会から田沢湖駅伝、全県駅伝、美郷新人駅伝へと声と心でつなぐ、「共に走る美郷」として継承しました。

加えて、男子バスケットボール部の全国大会をはじめ、過去に例を見ない数の団体・個人による全県大会の好成績と東北大会での大健闘が、記憶と記録に刻まれました。吹奏楽部のマーチング東北大会金賞も心に響き渡りました。まさに、「美郷旋風～大地を翔る希望の風～」という生徒会テーマのとりの活躍でした。

私は忘れません。皆さんのご両親やご家族と一緒に応援席で歓喜したあの時を。

合唱祭や「限りない夢～皆の想いを風に乗せて～」のテーマの下に開催した一心祭では、やはり栄叶学年の優しい心根が随所に光りました。全校合唱「大いなる秋田」のアンコールに「賛歌」で応え、会場を感動で包みました。

タイ王国との交流は、工夫を凝らした歓迎会や様々な交流活動によって、本事業の大きなねらいを達成し、本校の特色ある教育活動としての土台を築きました。栄叶学年のおかげです。

皆さんの歌声やパフォーマンス、そして日々の生活や生徒会活動は、1、2年生が憧れの目で背中を追い、今、確実に継承しようとしています。

「白馬蘆花に入る」という禅の言葉があります。白い馬が、白い蘆の花の中に一体化していることを捉え、集団の中にあっても、その中の一人一人は全く違った個性と人格をもった存在であると教えています。

皆さんがこの美郷中学校に入学したときは、まさに大集団に飲み込まれ、大きな不安があったことでしょう。知、徳、体がダイナミックに変容する中学三年間では、多くの人が悩み、苦しみ、両親や家族、先生や友人の声を受け容れられないときもあったことでしょう。振り返ってみると、君たち一人一人の個性と人格を尊重し、それを伸ばそうと関わってくれたことが分かります。美郷中学校での三年間が、君たち

一人一人にとって蘆花の中の白馬のごとくであったとすれば幸いです。

そして、有名な「次郎物語」の中で、作者下村湖人は「白馬」を「白鳥」に変え、蘆の白い花に隠れて白鳥の姿は見えずとも、花の微かな動きによって白鳥の存在は推し量られることから、一所懸命やっていたら、その功績は自己主張せずとも必ずや人々に認められるということ。「白鳥蘆花に入る」と表現しました。

皆さんはこれから先、上級学校や、働き、生活するという、更に大きな社会へとそれぞれの身を投じていきます。どんな集団の中にあっても埋没に焦る必要はありません。人は一人では生きていけません。人と関わり合ってこそ人として生きるのです。そのときこそ、「白鳥蘆花に入る」の白鳥を自分に重ねてください。

花は誰かのために咲くものではありません。精一杯、置かれた環境で自分の生を全うしているのです。私たち人間はこの大自然の営みから計り知れない恩恵を授かり、生かされています。君たち一人一人は、自然界や人間社会のために、それぞれが有する素晴らしい叡智と能力を発揮するよう、この大自然の摂理に生かされています。今の、この困難な状況に置かれていることも同様です。その使命を自覚し、名を求めず、利を求めず、「白鳥蘆花に入る」という生き方を参考にしてください。餞の言葉とします。

本校のキャリア学習は、今年度、文部科学大臣表彰の栄に浴しました。皆さんが三年間で身に付けた生きる力に自信と誇りをもってください。

美郷中学校での三年間の思い出を胸に、希望という名の翼を広げ、勇気という名のエネルギーを焚きつけ、人生という課題に真正面から立ち向かって、夢という名の自分を求めて羽ばたいてください。

栄叶学年143名の門出に当たり、その前途洋々たるを祝して式辞といたします。

令和2年3月7日

美郷町立美郷中学校長 千田 寿彦

